

苦小牧市医師会
医 師

江夏 朝松

前立腺肥大症

高齢化社会の中で老人人口の増加とともに前立腺（せん）肥大症も確実に増えている。最近の統計では五十歳以上の男子高齢者の二割近くに前立腺肥大症が見つかったという報告もあります。

前立腺は膀胱（ぼうこう）の前部、尿道の根元に位置し尿道をとり巻く形になって存在し、精液の主成分である前立腺液を

排尿回数が増加

成生分泌しています。

前立腺が肥大するとその真ん中を貫通している尿道を圧迫し尿が通りにくくなり、尿が出にくい（排尿困難）症状があらわれます。具体的な症状としてまず排尿の回数の増加、特に夜間の排尿回数が増えます（夜間頻尿）これは、肥大した前立腺が膀胱を圧迫するためだけでなく、排尿したあとにも膀胱内の尿

を全部出しきることができなくなり尿が残るためだと考えられます（残尿）。その他、尿がすぐ出ない、尿の勢いが弱いなどの症状があげられます。さらに進行すると突然尿がまったく出なくなります（閉尿）。残尿がある程度以上になると腎（じん）機能が障害されて腎不全、最終的には尿毒症となります。

治療は薬物療法と手術療法があります。治療の選択には病状の程度を把握する必要があります。そのためには前立腺を直接触れることのできる直腸診と尿流量検査による排尿状態の観察と残尿の測定が必要です。残尿がある場合は手術療法を考える必要があります。手術療法も最近では温熱療法とかレーザー療法が開発されていますが、今のところ最も効果的なのは経尿道的前立腺切除術で少なくとも開腹して前立腺を摘除する必要はありません。

経尿道的前立腺切除術は、尿

道から内視鏡を差し込んで前立腺を細かく削って切除する方法で、開腹手術と違って比較的安全で術後の回復も早く、翌日には歩行し、術後一、二週間で退院可能です。

手術成績については九〇%以上の有効との調査結果が報告されており、具体的には「便器が壊れそうな太く勢いのある小便」「すぐ出る小気味よい尿」とか「若さを取り戻した膀胱」などのアンケートもあり、熟年男性の快適な生活に大いに貢献しております。

最後に、やはり老人の前立腺の病気で同じような排尿困難を主症状とする疾患として前立腺がんがあります。これは自覚症状からだけでは鑑別不能です。軽い排尿障害をただの前立腺肥大と考えると安易に薬物治療に終始し、がんの存在を見落とすことのないよう直腸診とか超音波による診断を求めるべきです。